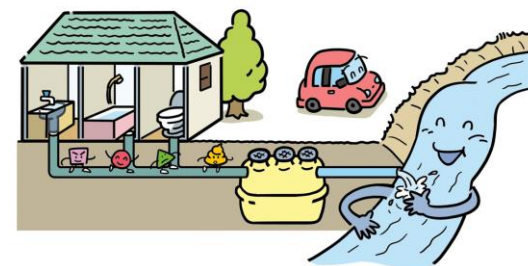


四日市市 生活排水処理施設整備計画(アクションプログラム)の 概要

生活排水処理施設整備計画の見直し

1/6

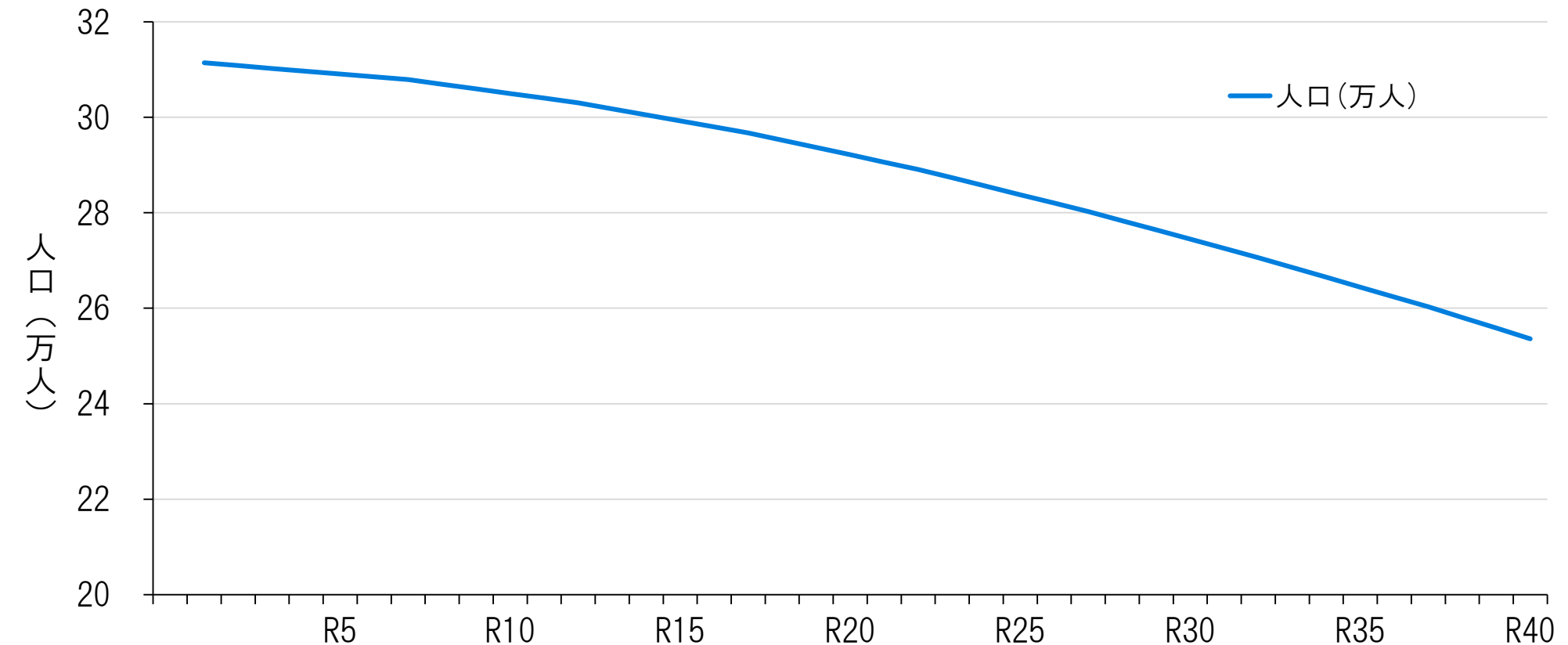
- 生活排水処理施設整備計画とは
 - 公共下水道、コミュニティ・プラント、農業集落排水、合併処理浄化槽により、汚水を処理し、公共用水域の水質保全と生活環境の向上を図るため、処理施設を効率的に整備するために策定した基本構想である
 - ➡公共下水道、コミュニティ・プラント、農業集落排水、合併処理浄化槽の
浄化処理機能は同等
- 計画見直しの手法
 - 人口や汚水量の動向予測を基に、今後整備を予定している市街化調整区域を、公共下水道、合併処理浄化槽のどちらの手法で整備をするのが最適であるかについて、償却費と維持費を合算した総費用を推計し経済性を比較する
 - ➡健全な下水道事業を維持するため、最適な処理手法を選定



将来の四日市市の人口(人口動向)

2/6

- 四日市市の人口は減少していく見通し

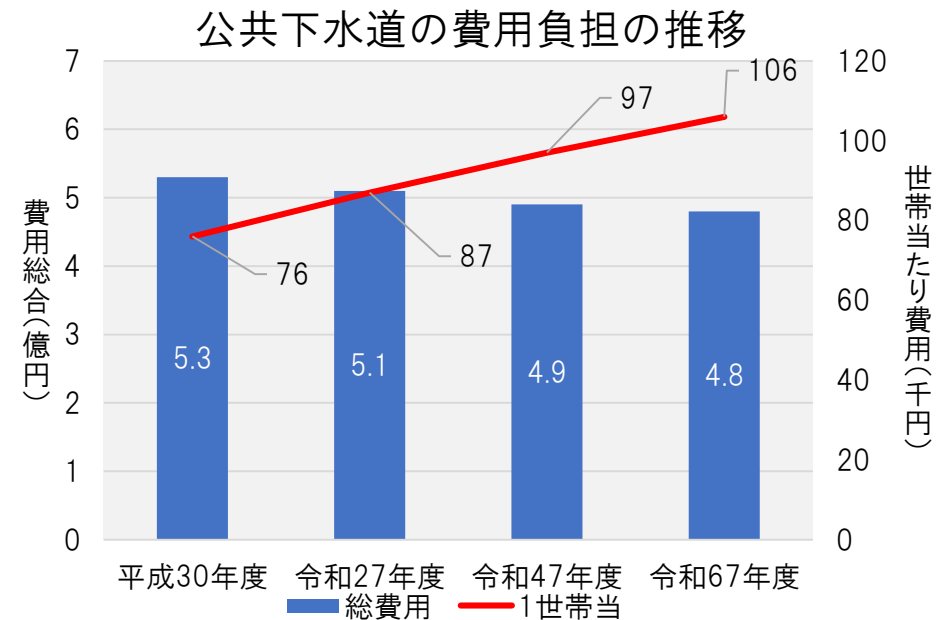
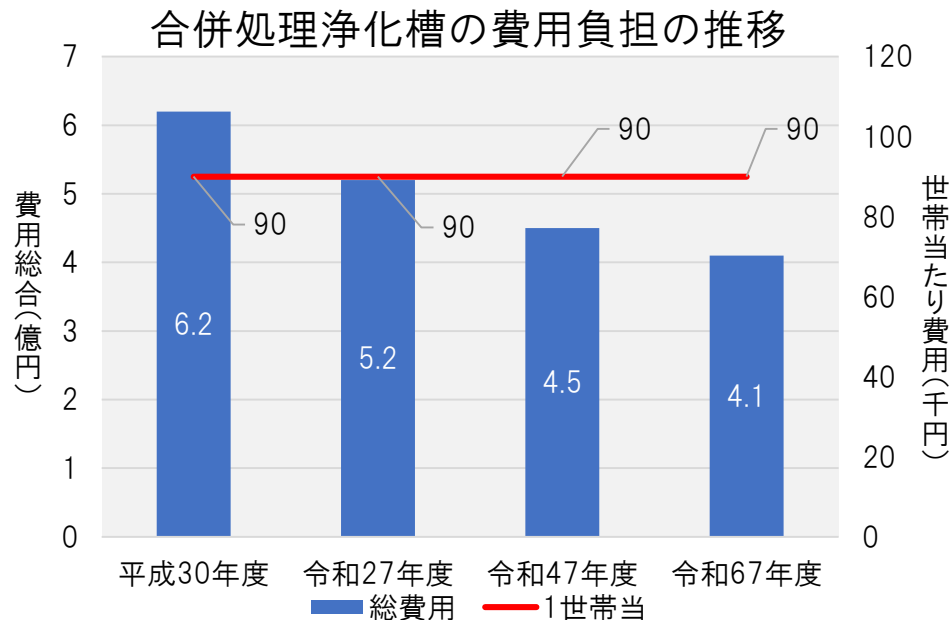


四日市市総合計画より

経済性の比較(合併処理浄化槽と公共下水道)

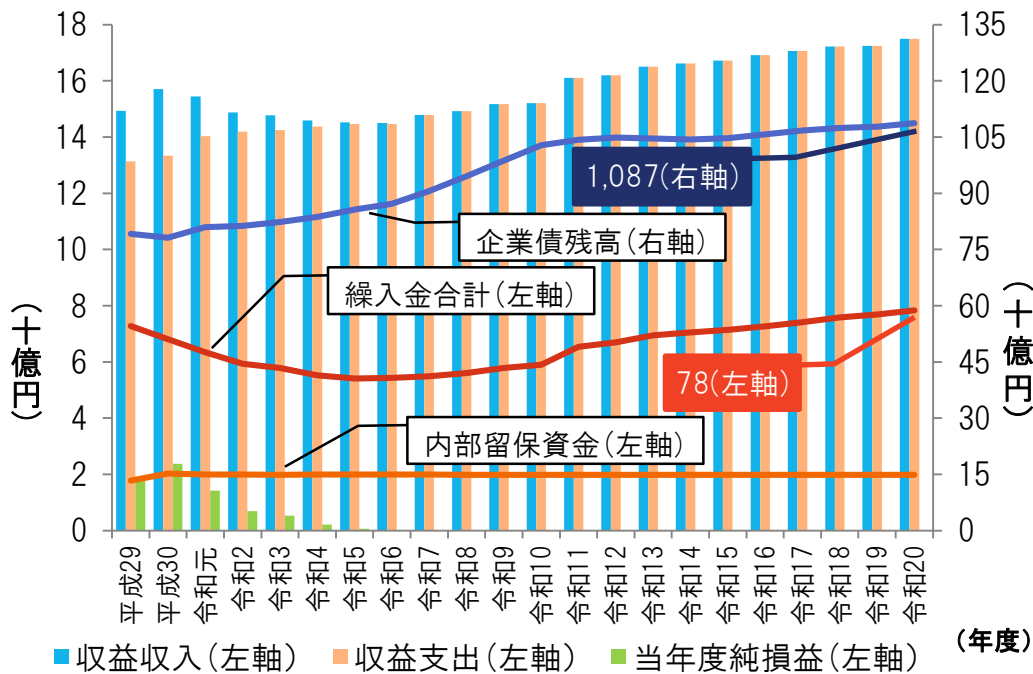
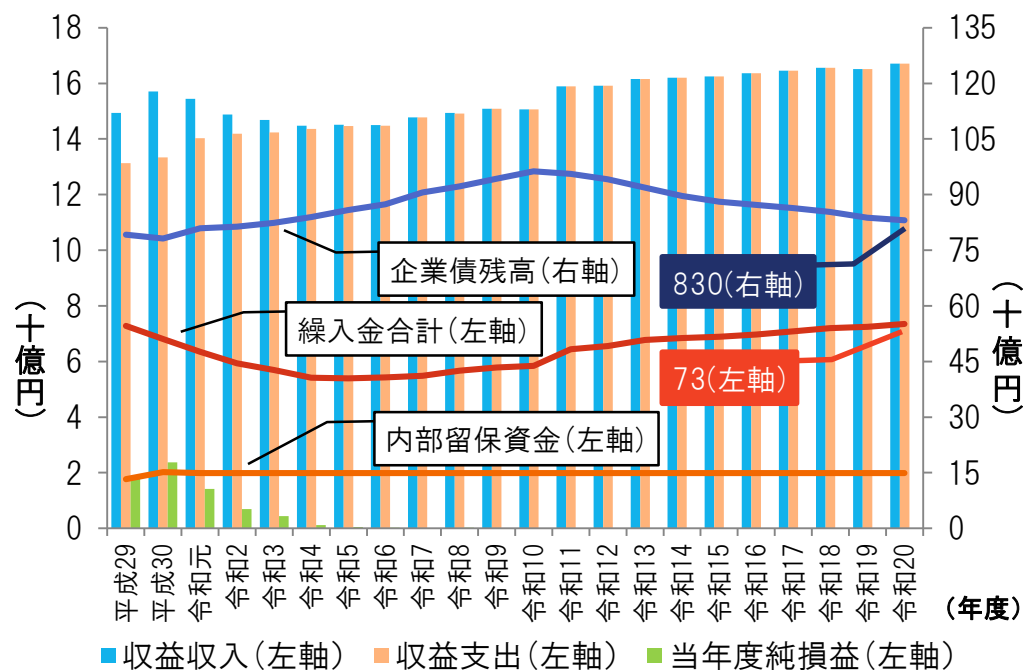
3/6

- 合併処理浄化槽(左図)
 - 人口減少に伴い償却費と維持費は共に減少
 - 世帯当たりの費用に変化なし
- 公共下水道(右図)
 - 人口減少に伴い維持費は減少、償却費は変化なし
 - 人口減少により合併処理浄化槽に比べ世帯当たりの費用は増加

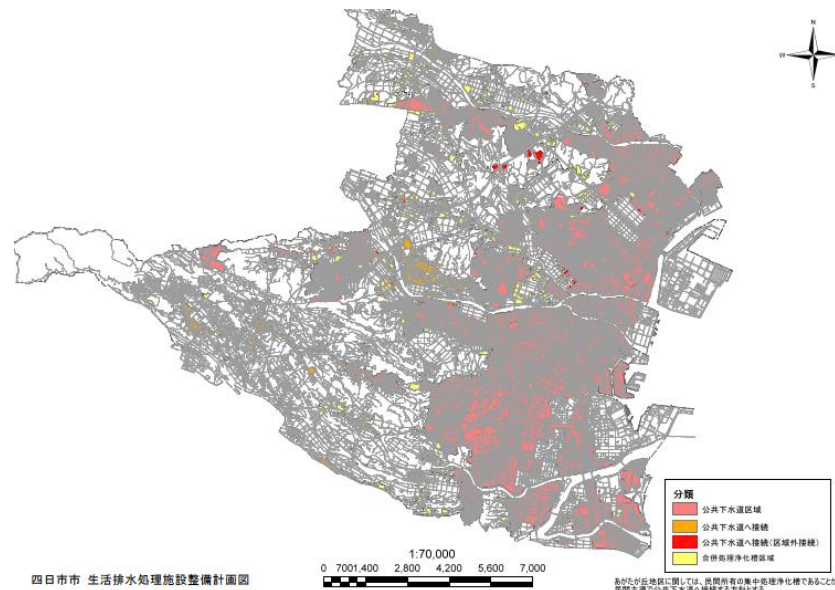


財政見通しについて(調整区域の整備)

- 合併浄化槽で整備する場合(左図)
 - 企業債残高が令和20年度に約830億円に減少する見込み
 - 一般会計からの繰入金が令和20年度に約73億円となる見込み
- 公共下水道で整備する場合(右図)
 - 企業債残高が令和20年度に浄化槽より約262億円多い約1,087億円に増加する見込み
 - 一般会計からの繰入金が令和20年度に浄化槽より約5億円多い約78億円となる見込み
- 上記より、経営環境が悪化することが見込まれる



- 市街化調整区域の生活排水処理施設
 - 市街化調整区域を公共下水道で整備するには、多額な建設費用が必要であり、将来人口が減少し、使用料収入が少なくなることから、将来の下水道事業経営を悪化させることから、市街化調整区域の生活排水処理施設は、合併処理浄化槽で整備していく
- 市街化区域の生活排水処理施設
 - 市街化区域の生活排水処理施設は、引き続き公共下水道で整備していく



汚水処理施設の年次計画

		H30末(実績)	R7（中期）	R17（長期）	整備完了
行政人口（単位：人）	合計	311,431	307,895	296,748	296,748
	流域関連公共 北部	102,523	116,845	116,878	117,497
	流域関連公共 南部	18,232	19,306	19,012	19,012
	単独公共 日永	123,455	139,999	137,950	140,465
	公共下水道 小計	244,210	276,150	273,840	276,974
	農業集落排水	6504	4922	2515	0
	コミュニティ・プラント	2956	696	619	0
	農集・コミプラ 小計	9460	5618	3134	0
	集合処理 小計	253,670	281,768	276,974	276,974
	合併処理浄化槽	31,426	26,127	19,774	19,774
	単独処理浄化槽・汲み取り	26,335	0	0	0
	個別処理 小計	57,761	26,127	19,774	19,774
	生活排水処理整備率 四日市市	91.5%	100.0%	100.0%	100.0%
	生活排水処理整備率 三重県	82.6%	92.3%	97.6%	100.0%